

フードバンク + 隅田川医療相談会

小さな声を集める・伝える

つぶやき



2025年12月吉日

発行：一般社団法人 あじいる

2025 Vol.14 [NEWS]

一般社団法人 あじいる



巻頭

医療相談会は
何を目指してきたのか

報告 医療相談会

あじいるの
足湯を語る

報告 フードバンク

お米がない！
から半年

仲間 日常スケッチ

タッキーのつぶやき

報告 地域とつながる

祭り！

場のチカラ

報告 それ行け自由ひろば

表現活動部より
Art to You!
障がい者芸術世界展

VOICE ボランティア

チエ★のつぶやき+封筒のささやき

活動報告 2025.4→2025.9

隅田川医療相談会+フードバンク

毎週木曜日の資源回収風景。あらわな子ども応援ネットワークへ
寄付を届けています。 写真 小和田 直幸

巻頭 医療相談会は 何を目指してきたのか



今年度に入り、私たちは重い課題に直面し右往左往していた。それは、24年間続けてきた隅田川医療相談会について、なぜか今頃になって、台東区保健所からの指導が入ったのだ。ことの経緯はこうだ。

今年、4月の医療相談会の後、台東区保健所から「薬を配ること、鍼灸、散髪は、法律に違反するので、やめるように」との指示が来た。それ以降、医療相談会では残念ながらこの3つの活動を取りやめてきた。一方で、今後の私たちの取るべき方法は何なのか、合法的にこれらの活動をやるにはどうしたらいいのか等、この半年近く話し合ってきた。未だ結論は出ていないが、もう1度私たちが「医療相談会をやってきた意味は何なのか」を振り返り、今回の台東区保健所の通告は「どんな意味があるのか」を考えていきたい。

医療相談会は、2001年に始まった。当時、バブル崩壊中、多くの人々が職を失い、福祉制度からも排除される中で、隅田川河川敷に2000軒以上のブルーテントが立ち並ぶ。そんな中で、山谷に関わる団体が実行委員会を作り、医療従事者や法律家等、様々な専門家の力を借りて、月に1回隅田川沿いで、誰もが受けられる路上の医療相談会を開催することになる。どんな人間にとっても、命を守ること、健康を維持することは、当然の権利であり、基本的人権の1つである。国や行政が、何の手当もしない中で、民間の力で何とか命を守ってきたのだ。それから24年、途切れることなく医療相談会は月に1回開催されてきた。コロナの時には、必要な人には抗原検査を実施して、陽性者を病院へつなげることもしてきた。

一方、現在では以前と比べて、生活保護を利用することは可能になったが、家族への扶養照会の問題や劣悪な施設入所など、生活保護をとれば全て解決するとは言いがたく、路上を選ぶ人もいる。

そうした路上を選んだ人々に対して、全て自己責任として放置しているのが、今の行政の在り方だ。また、たとえ生活保護を利用していても、今の物価高騰の中で、生活が苦しく市販薬を買えない現実もあるだろう。前回のニュースレターで下医師が書いていたが、一般に常備薬として家庭にある風邪薬や胃腸薬等、いざという時に薬があるのは大きな安心につながるし、医師が判断した上での薬の提供は心強いものだ。だからこそ、毎回100人以上の人々が集まり、50人もの人々が薬をもらいに来るのだ。

台東区保健所は、この薬を配る行為等が、薬機法に違反するとしている。本来、国や行政がやるべき施策を、民間のボランティアが知恵を絞って、命を守る活動をしようとするのが、法律に反する行為とされてしまうのか？もしそうであるならば、民間が法律を冒さなくても済むように、国や行政が積極的にその施策を打つべきである。これだけのニーズがあるのに、自分たちは対策を講じるどころかニーズを把握しようともせず、法律に反するからやめろと指導するだけというのは、行政としての責任を放棄していることであり、生活困窮者の命は守られなくても仕方がないと言っているようなものだ。

以上のように、私たちは24年間休むことなく、どんな状況の人も、命を守り健康に生きる権利—基本的人権を守る活動を続けてきた。

しかし、今後どんな活動ができるのか、暗中模索の日々である。この24年の蓄積を無駄にせず、それを発展させていく方法を今こそ考えていきたいと思う。

文・荒川 茂子

あじいるの 足湯を語る

10年ぐらい前、みんなで上野公園の夜回りをしていました。野球場わきで出会った一人の中年の男性が「右足が痛むんだ」と言い、靴下を脱いで見せてくれました。「蜂窩織炎だ!」皮下組織に細菌が入って炎症を起こして熱を持ち、赤く腫れ、膿が出ることもある感染症です。足趾の間の皮膚が白癬(みずむし)で脆(もろ)くなって、そこから細菌が入ることが多いのです。「足をやられるのは致命的だよ。炊き出しに行けなくなったら、生きていけないもんや」男性のその言葉が、ずっと心に残っていました。

もう一人、思い出されるのは、上野駅不忍口のさくらテラス前に座り込んでいた初老の男性です。ゲートルのように両足に包帯が巻かれていたのですが、そこから膿が滲みだして固まっていました。「1か月前に退院した時、巻いてもらったまま。」「何回も入院してる。手術を勧められたけど断って逃げてきたけど…もう歩けない。」ふくらはぎの深部の静脈の弁が壊れたり働きが弱かったりして心臓に血を送れず、逆流して足に血が貯まっている状態(鬱滞)があると蜂窩織炎が治りにくいので、血管外科で静脈を整える手術をしてもらいます。「今度手術してもらった方がいいね」と声を掛けながら、救急車を呼びました。明るいところに移された時、救急隊員が「ウジ虫がいる」とつぶやくのが聞こえ、胸がつかまりました。

このような体験から、「足の健康は野宿生活の命綱」「白癬を予防し、早く見つけて治すことが大切」ということが、身に染みてわかりました。そこで、医療相談会でもフットケアができるといいな…と考えました。この頃、池袋の医療相談会でフットケア・ナースの資格を持つ看護師さんと出会い、道具などを教えていただきました。少しずつ足湯用品を買



い集め、あじいるメンバーの看護師、勅使川原さんの指導のもとに「足を入浴剤入りのお湯であたため、洗い、ケアをする」「創傷や感染、胼胝(タコ)のある場合は、専門家がしっかり対応する」そういうスタイルが出来上がってきました。最初は医療相談の列に並んでいる皆に「勧誘」に行ってもなかなか希望者が集まらなかったのに、おかげさまで、今では大盛況になりました。一度でも足湯を経験していただくと、自身の足を意識するようになり、出来る範囲で清潔にしようとする習慣が、みなさんに根付いてきたように思われます。わたしたちの足湯は、足のトラブルを現場でケアするということだけではなく、トラブルの予防に少しでも貢献できますように…という思いも込められています。

足湯はその後、現場での気づきや利用する仲間の声をもとに発展し、優れモノの爪やすり、角質ケアマシンも導入しました。また、「キレイになった足には新品の靴下をはいてもらいたい」という声があがり、好きな靴下を選んでもらうのも恒例になりました。

さらに、もうひとつ、大切なことを書き加えなければなりません。スタッフ・利用者の中に「足湯は只のフットケアにあらず。顔の見えるお付き合いであり、心の交流の場だ!」と、自然と気づきが生まれたのです。あるスタッフは「これまで食べ物を配る関わりしか出来なかった。つらい生活のなかで、つかの間でもリラックスしてほしい…その思いが通じ、笑顔がもらえる。こういうことをやりたかった」と話します。場に漂うなごやかなムードは、スタッフと利用者みなさんが一緒につくりあげています。それは、「足湯コーナー」ならではないのと感じますし、リピーターが沢山なのも、うなずけます。

文・今川 篤子

お米がない！ から半年



お米がない!買うところもない!今年の4月はどうしてもお米を確保することができず、20年以上フードバンク活動をしていて初めて登録団体にお米を渡すことができませんでした。そんな危機的状況を打破すべく、「あじいる」として「緊急事態宣言」を出し、新聞各社から状況を発信。現在なんとかお米を確保することができている状況です。

確保できるまでは私たちも必死でした。そもそも私たちがお米を渡している団体は生活困窮者を支援していたり、孤立や孤独になりがちな高齢者や障がい者の居場所づくりをしていたりする団体です。そこにお米を渡せないということは、普段から苦難をして生きている人がさらに大変になるということ。お米を集めるためのチラシを作成し、イベントで配る、知り合いのつてを使ってお米を購入できるところを探し、農水省の備蓄米の申請をする。それぞれができることをして、何とかお米を確保できたのです。

もちろん私たちだけでなく、協力してくださる農家の方々、個人で送ってくださる方、団体で集めてくださる方のおかげです。多大なるご協力に感謝いたします。その思いがお米を通して登録団体に届いていると思います。

また、今回「ちーずのこえ」の今野徹さん（FOOD VOICE 代表）には、本当にたくさんのご協力をいただきました。多額な寄付金を集めてカンパしてくださったのはもちろんのこと、お米を購入したくても、どこも売ってくれない中、卸売業者さんに交渉してくださり、あじいるにつないでくださいました。そのおかげで、何とか登録団体にもお米を渡すことができました。

そして、今野さんから「登録団体以外の団体も危機的状況に陥っているので、『あじいる』を経由してお米を渡してもらえないか?」との相談もあり、普段お米を渡している登録

団体にプラスして、「あじいる」とつながりのある4団体に緊急支援でお渡ししました(7月～10月)。

どこの団体も運営するうえでお米が確保できない状況は深刻でした。都心で生活困窮者向けの相談活動や食料配布を行っている団体には約700名が並びます。野宿生活をしている方だけではなく、年金暮らしや低賃金で働いている方、生活保護を利用している方も物価高の影響で生活苦になる方が多くなっており、人数が減らない状況です。

難民申請者など外国籍の方を支援している団体は毎月270キロのお米を各家庭に送付していると聞きました。そのお米は今まで寄付で賄ってきたが、なかなか集まりづらくなっていると。お米をお渡したら大変喜ばれました。

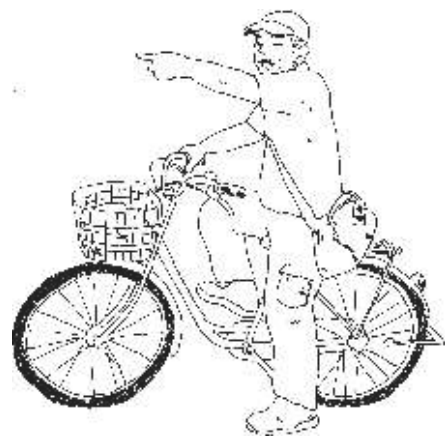
物価高の影響だけでなく、支援団体の先にいる当事者が大変な状況になっています。外国籍の方や野宿者・生活保護利用者へのバッシングやヘイトスピーチがひどくなっていますが、あまりにも思い込みや想像力のない批判・非難に辟易します。ネットだけでなく、テレビのニュースから流れてくる権力を持つ者たちから発せられる発言も…。

月に一度お米を渡したからといって、当事者の生活が救われるかといったらそうではないけど、「自分にお米を届けたいと思っている人がたくさんいる」とわかったら、ほんの少しだけ救いになるのではないかな。そんなことを思いながら、これからも一生懸命お米を集め、渡すことに奔走します。

皆さま引き続きご協力をお願いいたします。

文・荒川 朋世

タツキーの つぶやき



「まーた勝手に荷物増やして…どこに置くんだ？」

どきっ。

タツキーがこちらを見ながらつぶやくのが聞こえてきた。

いやこれはね…、と説明してみるが、なんだか煮え切らない表情のタツキー。

「ものを増やすだけ増やして片付けねんだ……いつもそのままにして…」

いつも「あじいる」の倉庫を整理整頓してくれているタツキーは、ちょっとだけ肩をいからせ、つぶやきながら倉庫奥の精米室へ消えていく。

タツキーは長く「あじいる」にかかわっている仲間の一人だ。「あじいる」のありとあらゆる物資は彼が整理整頓してくれている。毎週の資源回収の日も、月に一度の共同作業日も、誰に言われることなくせかせかもくもくと、動き回っている。タツキーがいないと、「あじいる」は回らない。みんなの共通見解だ。

「今日の夜回りはポッカのゼリーとクッキーがあるから。クッキーはたくさんあるから。1人2つ以上渡しても大丈夫だから。」

医療相談会前日の夜。私たちが仕事を終えてあじいるの倉庫に行く頃には、タツキーは夜回りで配る食品の仕分けをほぼ終わらせている。日ごろ寄付でいただく物資は、タツキーがすべて内容を把握し、個数を数え、段ボールに入れて管理している。積み上げられた段ボールの側面には、中身の名称と賞味期限がきちんと書かれている。ピラフが「ピラプ」になっていたり、スプーンが「スプソー」になっていたりするときもある。ちなみに、ポッカとはポカリスエットのことだ。

夜回りの翌日、配った食品の余りを数えるのもタツキーの毎月のルーティンだ。

「昨日のうちに配れってあれだけ言ったのに……こんなに余らせて……どうすんだこれ…」タツキーが横でつぶやいている。

医療相談会の日のタツキーは忙しい。朝のご飯作りは卵担当で、ゆで卵を作るため80個の卵すべてに小さな穴をあけていく。お弁当箱にご飯とおかずを詰める作業ではしんがりを務め、中に銀紙を貼ったお手製のケースにお弁当をどんどん詰めていく（「いつも誰かが銀紙剥がしちゃうんだ…」）。お昼は小さなおにぎりでおなかを満たし（「そんな大きなおにぎりはいらねえ」）、一足早く倉庫へ戻って仲間にあずかる飲み物や食品の準備をする。

相談会の会場では、全体を見渡す係だ。お弁当の列に早く並びすぎる人や食べ物をほかの仲間よりも多くもらおうとする人がいると、「何回言っても聞かねんだ」とつぶやきながらきちんと注意をする。

「上野の夜回りで声かけたおじさん、相談に来た?」「ほらあそこにいる2人、最近よく相談会に来るんだよ。さっき声かけたんだけどな、どうするかな…。」

決してスムーズには動かさない足をせかせか動かしながら、会場を歩き回って仲間を見守るタツキーがいる。

「あじいる」の活動はタツキーのつぶやきとともにある。

彼のつぶやきが私たちの背筋を（ちょっとだけ）ピンとさせてくれて、何か新しいことやいつもと違うことをしようとするとタツキーの顔がどうしても思い浮かんでしまう。「タツキーなんて言うかな?」「タツキーに言っておかないと」「タツキーに報告しよう」。

少しでも長く、タツキーのつぶやきを聞きながら、一緒に活動ができますように。

文・仲嶺 菜美子

祭り！ 場のチカラ



フリマです。昭和生まれのたたき上げ、文字通り地を這うようにして生きてきた「あじいる」の仲間が、フリマ登場!? 11月8日荒川総合スポーツセンターで開催された「あらかわ福祉まつり」でのこと。毎年、この祭りで新米を売ってきたあじいるの面々は、会場の熱気から取り残され、すっかり黄昏れてました。本当なら自分たちが作った米を売る。でも、米が足りずに緊急カンパを呼びかけている我々が米を売るのか。熟考の末、新米販売はやめて、あじいるの活動日に昼飯を作ってくれる、どっこい食堂が作ったおにぎり弁当を売ることにしました。

そう、フリマです。祭りなんてもんじゃない。安さを求めて来場した人々が行きかう会場は、まさにフリマ。「あじいる」の隣にはリサイクルショップが古着とゲームを展開。その先の人気パン工房はカツサンドからスイーツまで夢のような品揃え。反対側の隣は富くじ。「あじいる」プラスおにぎり弁当は…。静止画像か? 私はひたすら呼び込みに専念。

「お豆のご飯のおにぎり、と、出汁が効いたアゲとゴマのおにぎり、と、二つで三百円。おにぎり弁当いかがですかあ〜」。突然、ひとりの女性が弁当の横に並べておいた冊子を手に取りました。「あじいる」の仲間たちから聞き取りして、ひとり一冊にまとめ、第6号まで発行した冊子の最新号が、たまたま弁当販売をしていたTさん特集だったんです。表紙を指して「これ私です」とTさん。「あら!読んでみる」とお買い上げ。やったあ!



それでもなんとか、おにぎり弁当ほぼ完売。そこに募金箱を抱えてやってきたのが「あらかわ子ども応援ネットワーク」の少年二人。「あじいる」が毎年、ダンボール回収の売上を寄付している団体です。「ご協力お願いしま〜す」と子どもたち。「おお」「今年もな」「寄付するよお」「うん、うん」笑い声も溢れて、仲間たちの想いがひたひたと広がり子どもたちを包みます。「あじいる」の仲間たち(じじばば)は枯れ木に花を咲かせる人たちなんだ。

11月最後の土曜日は「ひと・もの・くらし あらかわ再発見 2025」にブースを出しました。祭りの定番フランクフルトは茹でてから焼く本格派。「あじいる」の冊子も久々に売れ行き好調。ワケありレタスを一玉 100円で売り始め、最終的には二玉 50円で売り抜く荒業もやってのけました。ジュースも売ったし。資源回収にはリヤカーで運びきれないほど衣類や紙類が集まったけど、フードドライブの収穫はゼロ。去年は缶詰とかレトルトとか麺類を頂きましたが、今はもう、食べ物を分け合う余裕が無いのでしょうか。生活防衛に必死の毎日を、ちょっぴり忘れられる憩いのひとときに、この祭りはなっていると信じてい。

ステージのフィナーレを飾るのは「千葉ダルク」のエイサー演舞ですが、その前に「あじいる」のメンバーがステージに呼ばれました。「あらかわ子ども応援ネットワーク」代表の大村みさ子さんと御対面。福祉まつりで子どもたちにした約束を実行するときに来たのです。多くの人が見守るなかで授与式は完了し、「あじいる」は新たなスタートを切りました。来年もこのステージに立つために資源回収を続けます。田植えも稲刈りも。ご支援よろしくお願いします。仲間たち、みんなで完走しようね!

文・鈴木 香織



はじめの1歩は
軒先の小さなイベントでした



2025年、今も同じ気持ちで
この場所であなたと出会い
わたしもあなたも
つながり生きたい
だからお祭りやりました！



誰もが差別や排除をされない地域はどうしたらできるのか、
自分たちにできることはなんだろう。出会うことから始めて
みる。2010年、始まりは小さなイベントだった…
歩を進める、最初の1歩をくりかえす。地を蹴りあげ踊る！
たおやかに円が広がるように



報告 それ行け自由ひろば

表現活動部より Art to You ! 障がい者芸術世界展



表現活動部・自由ひろば風景

東京 DEW から4名、自由ひろばから8名、アウトリーチから繋がった在宅1名、計13名の表現活動部メンバーが応募していた世界公募展の結果が届きました。

国内外から1,375名の応募があり、143名が入選という狭き門の中、自由ひろばから山崎まどかさんの作品が選ばれました!入選だけでなく、企業賞の一つである佐藤工務店賞に入賞するという快挙!

ミノルさんとイシヤンさんが自由ひろばでの表現活動を牽引して1年と8ヶ月、2人と仲の良いバビさんが参加して、待望の〇〇ボーエさんも参加して、皆のマドンナまどかさんも参加して、レギュラーメンバーも増え、皆のおかげで表現活動が成り立ちました。

まどかさんの入選・入賞はメンバー全員が納得&祝福!!そしてメンバーたちの存在と自由ひろばという場も、まどかさんの快挙に力を添えたと思います!!

まどかさん本当におめでとうございます!!!!

文・小和田 直幸

まどかのつぶやき

入選の報告が自由ひろばから届いた日、それまで溜まっていた涙が出た。

表現することは私にとって心を打ち明けることだ。それを審査の人たちが受け取り「見ています」というメッセージをもらったように感じた。嬉しかった。

次に1枚、また1枚、描こうとする思いは、そのまま、わたしが生きようとする。週に1度、世の喧噪から離れ、仲間たちと一緒に居る、ここがわたしの避難場所。

ここで関わるみんなは、しっちゃんめっちゃか凹凸でめっちゃあったかいのだ。だから好き。形式作法の枠なんかぶっこわし、自在にわたしを伸ばられる、失敗しても大丈夫。それが自由ひろばです。(つぶやき・山崎まどか)



山崎まどか
タイトル: Candy
画材: ペン、マーカー、絵の具、紙
サイズ: 縦38cm 横27cm

7カ月前、家を出た。わたしは他者の顔色を伺うのを止め、誰かの期待に沿った形からは解放されたいと願っていた。安心してはみ出せるモノ、それが絵を描くことだった。「今ここのわたし」が無目的に画材を選ぶことから始まる。わたしという存在そのものが大切にされ、紙の上で昆虫の羽化のように変容し続ける。

世界は苦く歪で笑えない喜劇だから、飛び切りの甘さが欲しい。呼吸するための余白も…。

自由ひろばと“Champora” (ちゃんぽら)

国籍、セクシャリティ、年齢、障害の有無等々、分け隔てなく交流できる、反貧困ネットワークの居場所づくりプロジェクト“Champora” (ちゃんぽら)。その中のアートに特化したセクションが表現活動部。様々な社会的事情、困難な状況にある方々が参加されています。

■お問い合わせ
aji_iru@yahoo.co.jp 小和田まで



展覧会情報

Art to You ! 障がい者芸術世界展 IN SENDAI 2025

期間: 8月21日(木)~8月24日(日)

会場: せんだいメディアテーク

巡回展

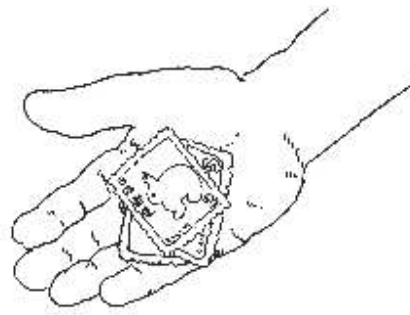
Art to You ! 障がい者芸術世界展 IN SHICHINOHE 2025

期間: 11月8日(土)~11月30日(日)

会場: 七戸町立鷹山宇一記念美術館



活動への参加の形も関わりかたもいろいろ。 チエ★のつぶやき



はじめまして。私は最近、共同作業日や医療相談会に時々顔を出す学生です。新参者の私がここを担当するとは、と恐縮しつつ、これまでのことを振り返りながら書いてみようと思います。

さて私は不器用です。要領も悪い方です。時々働かせていただいている「あじいる」では、レジの遅さに驚かれたお客様がいたかもしれません。そんな私が「あじいる」を知ったのは、ほぼ偶然です（社会教育を専攻し、アジールやボランティアに関心があったのもありますが）。アジールをうっかりひらがなで検索すると、ヒットした先にはアジの絵、あしあとプロジェクトや共同作業日の紹介がありました。参加したいとメールを送ると、最初に案内していただいたのが田植えイベントです。バスで隣になった方（初対面）から歌手クイズを出され、そのあとになぜか乾パンをいただきました。どうして乾パンをくれる流れになったのか、今もわかりません。わからないが、面白い。そう感じました。

今まであぜ道は何度も通りましたが、田んぼに入るのは初めてでした。足の裏に伝わるでゅわとした感触は、少し気持ち悪く、不思議でした。苗がなくなると声をかけます。すると苗がポーンと飛んでくる。飛ぶ苗。衝撃でした。私が植えた列は見事に曲がり、不器用さに情けなくなりました。初めてだけど、楽しかった。そうして私はあじいるに参加するようになりました。

共同作業日の2階の作業は私には不適..職..です。封筒は節約のため手作りで、紙は硬く、糊はすぐ乾きます。思わず「飽きた」と漏らすと、「飽きたなんてねえ」と呆れられ、「素直なのはいい」と笑われました。封筒作りのコツを教えてください方からは、ミリ単位の世界で働いていた過去も伺いました。私が「飛ぶ苗」話をすると「ウチでは腰にカゴを下げてたわ」と話す方もいました。家族で田植えをしていたそうです。それぞれの過去が聞こえます。

医療相談会では、資格も力も器用さも無い私は無力です。時々コーヒーマシを配っています。前回、私がコーヒーマシをぶちまけた時、並んでいた方が「ねえ、マジック好き?」と聞いて

きました。テーブルは中々の惨状で、拭かせてと思いつつ、突然すぎるそのセリフに笑ってしまいました。

あじいるでは、いろんな人がいろんなことを言います。それぞれの人生が聞こえます。マジックとか歌手クイズとか、変と言えばそれまでですが、不思議で面白く、不器用な私を受け入れてくれるあたたかな場だとも感じます。

同時に、生きづらさを感じる場でもあります。弁当に並ぶ長い列や、身体が痛いと言う声に無力さも覚えます。医療相談会では、「なりたい漫画家になれず、向いている仕事が無い」と話す方に会いました。私もこれから社会人（になるはず）なので、不安になりました。知ることは時に苦しくもなります。けれど、もう少しここに居たいと思っています。

私の「飽きた」発言では、呆れられた後にこう言われました。「それでもやるんだ。前に進まねえんだ。」前に進むとは何なのか。まだ答えは出ませんが、ここでもう少し考えられたらと思っています。

（追伸）

乾パンの賞味期限がいつの間にか切れていました。

乾パンっていつ食べるべきですか？ チエ★

封筒のささやき

「あじいるの封筒、なんか凄いけど、どうしたの?」そんな支援者様の声が届いています。ぶ厚くて、角にぶつかったら痛そうな頑丈な封筒ですから。実は仲間たちの手作りなんです。ある日リサイクルショップから紙の束が10個ほど届きました。印刷屋さん?が処分したのか、枚数にして万を超えるような大量の紙。しばらく作業場の隅に積んであったのが、いつのまにか封筒になってる!いつも切手貼りなど軽作業をしているメンバーの「もったいない」精神に火がついたようで、厚くて硬い紙を切ったり折ったり貼ったり、(本人たちは認めないけど)老骨に鞭打ちつつも封筒の山を築いております。ぴちっと折り目正しく仕上げたときの満足げな表情に浮かぶのは、今も変わらぬ労働者の誇りです。

鈴木 香織

2025.4→2025.9 隅田川医療相談会

あじいるの6つの取組みから
「隅田川医療相談会＋フードバンク」の報告
皆さまのカンパ・寄付により実施しました！

報告・池上 哉美



夜回り

医療相談会の前日、浅草・上野の2か所を回る
路上で寝ている方たちに、毛布や相談会の案内チラシを配りながら、声をかけて回る

浅草 153名 上野 289名

2024年10月～ 2025年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
夜まわり(浅草)	28	25	25	24	28	23	155
夜まわり(上野)	50	50	44	48	45	52	289

医療 相談会

毎月第3日曜日隅田公園山谷堀広場にて開催

- 健康相談

20名

医師・看護師による健康相談。血圧などの簡易的な検査も実施
- 紹介

3名

20代：2名 30代：0名 40代：1名 50代：4名
60代：2名 70代：6名 80代：0名 記録無：4名
- 足湯

79名

足を洗ったり爪を切ることが難しい方へのフットケア
- ご飯

801名

仲間のご飯をみんなでつくる！
- 生活相談

18名

生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談
- アパート相談

0名

生活保護受給後のアパート転宅等、住まいに関する相談
- 法律相談

1名

債務整理その他、法律家による相談
- 表現活動

67名

自由参加。巨大キャンパスで表現活動

*お薬、鍼灸、散髪は保健所からの指摘があり停止中



フォロー 活動 10名

相談に来た方たちの中で、生活保護の利用を希望する方や、継続的な治療が必要な方の医療機関・福祉事務所への同行を行う。入院した方のお見舞いや、継続的な相談の対応



助けてください **SOS** **お米が足りない!**

必要とされるお米が増えています。

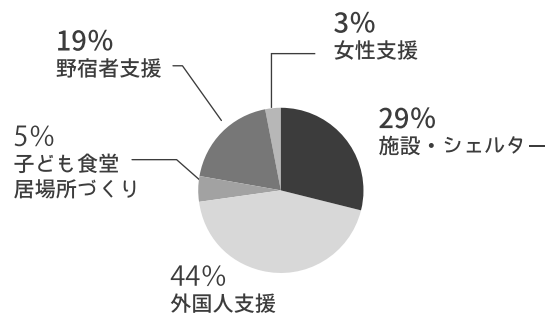
お米のカンパが減り、皆さまからの寄付でお米を購入していますが

現在、新規団体の要請は休止せざるをえない状況です

ご寄付・カンパをよろしくおねがいします！

フードバンク
2025.4→2025.9

29団体へ **4,678kg**のお米を
届けることができました



お米の配送状況		(2025年4月～2025年9月)						単位: Kg
登録団体名(受け渡し先)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
施設・シェルター	かわさきキャンプラース・アクションポート			40	40	40	40	160
	サークルドア			80	80	80	80	320
	山友会 ★					80	80	160
	ホームとらむ		5	5	5	5	5	25
	みのわマック		60	60	60	60	60	300
	友愛会		80	80	80	80	80	400
外国人支援	カトリック東京国際センター		80	80	80	80	80	400
	北関東医療相談会		180	100	180		100	560
	つくろい東京ファンド ★				180	180	180	540
	難民支援協会		60	60	60	60		240
	反貧困ネットワーク		24	34	27	25	36	146
	REN		30	30	30	30	30	150
子ども食堂・居場所作り	あらにん会			15	10	10	10	45
	オイコスプロジェクト						5	5
	子どもの居場所イン町屋		15			15	15	45
	汐入診療所				5		3	8
	東日暮里子ども食堂		10			10		20
	みやまえの家		20		20		20	60
	より処			10	10	10	10	40
野宿者支援	浅草聖ヨハネ教会		40		40	40	40	160
	足立野宿者支援の会さくら		30	30	30	30	30	150
	大田幸陽会		15	15	15	15	15	75
	TENOHASI ★				30	30	30	90
	ほしのいえ					20		20
	末日聖徒イエスキリスト教会		20	20	20	20	20	100
	もやい ★				60	60	60	180
	あじいる	20	20	20	20	20	20	120
女性支援	女性ネットSaya-Saya		20	20	20		20	80
	女性の家ヘルプ		20	20	20	20		80
合 計		20	729	719	1122	1020	1069	4,679

★ 緊急支援でお渡しした団体

お米のカンパ受取&購入状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
730	1,202	219	1,075	430	121	3,777

現在、米不足により、新規団体の登録を一時休止しています。

カンパのお願い

一人ひとりの生命を支える
サポーターになる

□皆さまからの会費・カンパに支えられて活動を続けています

お米や食品を備蓄する「低温冷蔵庫」の維持費／物資運搬の車両・燃料費
医薬品、備品の購入、共同炊事の経費、医療機関・福祉事務所への交通費
広報物の印刷費用、事務所経費などに使わせて頂きます。

お米が足りません

SOS

お米

米の不足により

新規団体登録は一時休止になっています

カンパ・寄付をお待ちしています

食品

お米支援をお願いします。24団体へ届けるためご協力を

- ・3年以内のもの
- ・玄米・白米ともに受け付けています
- ・外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- ・大口（100kg以上）の場合は事前にご連絡ください

- ・賞味期限が2ヵ月以上残っているもの
- ・日持ちするもの

レトルト食品、缶詰、調味料、乾麺、非常用食品など

物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品

＊靴下、男性用下着、タオル、カミソリ、石けん

湿布薬、小型ラジオ、テレホンカード

未使用切手、ハガキ。

お願い

■受け取ることができません！

×賞味期限が2ヵ月未満のもの

×開封後の食品

×生鮮食品

×商品説明が外国語のみのもの

お送り頂く際の送料はご負担いただきます。
ご了承ください。

会員

賛助会費 一口：3,000円（年間）

参加

ボランティア

一緒に活動して仲間になる

振込先 ☐ 銀行振込

ゆうちょ銀行 ○一九店

口座名義：一般社団法人 あじいる

当座預金：0673914

☐ 郵便振替

口座番号：00110-0-673914

口座名義：一般社団法人 あじいる

医療相談、夜回り、登録団体への食料の配送作業
イベントへの出店など、社会人だけでなく、学生など
どなたでも参加いただけます。

初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

送付・お問い合わせ先

一般社団法人 あじいる

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-36-10 あうん気付

TEL:03-5850-4863 FAX:03-5850-4864

Email:aji_iru@yahoo.co.jp

*送付を希望しない方はご連絡ください

応援して
ください



ニュースレターバックナンバーと
最新の情報はこちらで！